

令和4年度第3回日進市障害者自立支援協議会議事要旨

日 時 令和5年2月21日（火）午前10時～11時45分

場 所 日進市民会館展示ホール

出席委員

（会場） 平澤恵美、丸子哲郎、浅井里美、吉澤洵、伊東幸仁、木村文博、河端祐子、興梶精視、田中美保乃、松島弘治、中島範子、岡元洋子、山本かおり、近藤文子、巾和志、當日眞緒、奥澤弘子、中野英子（敬称略）

（オンライン） 松尾俊明（敬称略）

欠席委員 幸村和子、橋口磨理子、井上亘、後藤文吾（敬称略）

アドバイザー 竹田晴幸（尾張東部圏域アドバイザー）（敬称略）

事務局 川本賀津三（健康福祉部長）、伊東あゆみ（同参事）、祖父江直文（地域福祉課次長兼課長）、西尾直樹（同主幹）、野村圭一（同係長）、櫻木順子（同主査）、新海洋人（同主査）、梅村英子（介護福祉課長）、小塚佳子（同課長補佐）、岩城佳寿（同係長）、鈴木敦詞（子育て支援課長）、川上裕子（同係長）、小塚多佳子（障害者福祉センター施設長）、市川英子（障害者相談支援センター長）、福田有輝（同係長）、野々山勝己（相談員）、下島七海（同）

傍聴の可否 可

傍聴の有無 無

議事事項等

あいさつ

1 情報提供

2 議 事

- (1) 第4次日進市障害者基本計画、第7次日進市障害福祉計画・第3次日進市障害児福祉計画策定に係るアンケートについて
- (2) ヘルピーネット（電子@連絡帳）について
- (3) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて

3 その他

発言者	内 容
会 長	1 開会（あいさつ） 2 傍聴の有無の確認（申し出なし）。
会 長	議事に入る前にこの度新たに尾張東部圏域のアドバイザーとして竹田晴幸さんが就任した。
ア ド バ イ ザ ー	自己紹介と愛知県の障害福祉に関する動向について報告。 （当日配布の資料を用いて説明）

	質疑・意見を求める。
会 長	セルフプランの方が増えている事については具体的にどのような方針でいるのか。
アドバイザー	前回のアドバイザー会議で言及はなかった。令和 5 年度から積極的に取り組む話であった。
会 長	議題 (1) 第 4 次日進市障害者基本計画、第 7 期日進市障害福祉計画・第 3 期日進市障害児福祉計画策定に係るアンケートについて、事務局より説明を求める。
事務局(地域福祉課)	資料 1~5 の内容を説明。
会 長	かねてより計画を別々に作成しており 1 つにした方がいいと意見があった。タイミングとして基本計画と一緒に作成することができるため、アンケートも通常の物とは異なる形になっている。 質疑・意見を求める。
委 員	日進市内ではない地域で利用している人もいるが、日進市の人を利用している福祉サービス事業所に送られるのか？
事務局(地域福祉課)	市内の事業所と市民が利用している市外の事業所を含めてアンケート調査を行う。
委 員	アンケートの順番について、問いかけの順が分かりづらい。皆さんはどう思われるか。
事務局(地域福祉課)	事務局でも見づらさや分かりづらさについて意見は出ている。見開きにするなど分かりやすい形に見直しするかは現在検討している。いい案があればご教示頂けたらと思う。
委 員	明確に問いかけしてもらえると答えやすい。あと 1 点。25 ページについてもまとめて書くのはどうなのか。
会 長	いくつかご指摘いただいているので、またご検討頂きたい。
事務局(地域福祉課)	いただいた意見含めて検討させて頂く。
委 員	アンケートはどのように配られるのか。郵送で当事者のところまで届くのか。
事務局(地域福祉課)	郵送を考えている。
委 員	返信はどうするのか。
事務局(地域福祉課)	郵送返信用封筒を同封している。また、インターネットでの回答もできるように考えている。郵送で送りインターネットでも回答が出来るように考えている。
委 員	インターネットでの回答は郵送で送られてきたもののみになるのか。

事務局(地域福祉課)	対象者として郵送した方のみ回答頂きたいと思っている。
委員	対象者は自分で回答しないといけないのか？
事務局(地域福祉課)	対象者本人に回答頂く形をお願いしている。回答が難しい方はご家族や介護者等に代筆する形を可能とするか考えている。
会長	アンケート自体が難しいので同居者がいない方について懸念されていると思われる。一人暮らしで障害のある方は郵便を開けて中を確認することが難しいという課題があるのではないか。アンケートを回答できる人が限られてしまうことで回答が偏ってしまうのは課題と思う。
委員	資料の 5-7、障害者検討部会について。No.5 に関して、各事業所にとって虐待防止の研修は必須になっており、各事業所の方で対策は取られているが、何かいい案があればと出させて頂いた。 No.6 は体験利用について。特別支援学校や特別支援学級について、漠然と受けるものと思いやってきたが、最近色々な問題が出てくることが懸念されているので、何か仕組みがあるといいと考えた。 No.7,8 について、パワハラではなく利用者やご家族からのハラスメントについてどう考えているか。カスタマーハラスメントや虐待の事故等で亡くなっている方もいる。ようやく社会保障審議会で厚労省からの文章の中にハラスメントという文章が出ている。 事業所では不適切な対応した時には調査が入り、身体拘束せざるを得ない時も報告書をあげないといけない。私が感じている事として、重度な利用者や行動障害がある利用者を受け的事业所は減っていると思う。受け入れる事業所は職員の充実を求められ、疲弊していると思う。そのような事業所に関して、パワハラの問題も出てくる。利用者や家族からのハラスメントについて一文入れて頂けると日進市が取り組んでいると思える。 あと支援者からも僕らのことも見てくれていると感じると思って入れた。障害福祉がこのようにサービスとして位置付けられるようになって違和感でしかないが、サービスということはこちらとしても提供できるものには限界はある。色々な思いが巡っている。補足としてつけさせてもらった。
会長	利用する側も支援をする側も上手くバランスをとらないといけないと思う。他の事業所でも似たようなことを感じていると思う。実態把握という事も込めて、ハラスメントという言葉が果たして適切なのかも疑問ではある。そういった現状把握もできると良いと思うので、ご検討して頂ければと思う。
委員	アンケートに回答する側の身になると答えにくさはある。税金の申告

	でも相談窓口があるように、同じように相談窓口があれば良い。分からないことがあればお問い合わせくださいという一文はアンケートのお願いのところにも書いてあるが、分からない時の窓口として一緒に回答したり、最適な回答になるように導いてくれるようなシステムが少しでもあると、アンケートが充実すると思う。
会 長	窓口は難しくてもこの記載だけでもご検討頂きたい。言葉が難しく、いくつか意味が分からないものがある。
事務局(地域福祉課)	連絡いただければご説明等させて頂く形は考えている。書き方等も含めて今後も検討したい。
委 員	協会の方で日進市に住んでいる方は10名ほどいる。その方を想像してみると的確に答えられる人は2人程と思う。文章を読んで自分に当てはまるものを答えることは難しい。例えば委員の方に来ていただいて内容等の説明を受けながら回答することならできる。そのような時間を作って頂けるといいなと思う。
会 長	時間を作って説明に来てくれるのか。
事務局(地域福祉課)	団体用ではなく個人用の話なのか。個人に届いたときに答えられないから団体用に時間を取ってほしいと言うことか。
委 員	個人の方について。団体の方は話し合いながら答えられると思う。個人が回答する時に難しいと思うところがある。
事務局(地域福祉課)	すぐにそのような時間や場を設けられるのかの回答は難しい。何かできることがないかも含めて検討させて頂きたい。
会 長	ぜひ検討して頂きたい。おそらく多くの団体の利用者にそのような方はいると思う。1人でアンケートに回答できる人のみのものでは実際の日進の状況は分からない。できる工夫を前向きに検討してもらいたい。
委 員	家族や当事者だけでなく一般用があるのは良い。災害の時の使える情報があるのも良い。一般の人が答えたほうがいいと思える文章が1文くらい加えてあると良い。例えば、日進市としては障害のある人もない人も孤立することなく過ごせるようにこのような事をやっています等の文章を足せるといいのではと思う。
会 長	ぜひ様々な方に答えて頂きたい。貴重なご意見と思う。 多くの意見を出して頂いたので、また話し合い等して頂けると思うので、準備を進めてほしい。
会 長	議題(2) ヘルピーネット(電子@連絡帳)について、事務局より説明を求める。
事務局(地域福祉課)	資料6の内容を説明。

会 長	質疑・意見を求める。
委 員	ヘルピーネットに載る対象者は誰か？
事務局(地域福祉課)	複数の支援者がいる方に利用してもらえると良い。
委 員	ヘルピーネットは誰が利用するのか？
事務局(地域福祉課)	介護保険の利用者は、ケアマネジャーがつく。かかりつけ医・ケアマネ・ヘルパー等、連絡調整のために利用していただければと思う。
委 員	医療の分野にも広がっていくのか。
事務局(地域福祉課)	医師会の先生の半分は入っている。高齢者の分野が多いが、小児の先生にも入ってもらおうとも考えている。
委 員	障害に関係なく子どもも載るのか？
事務局(地域福祉課)	障害者支援のためのサービスになる。診療情報が載る訳ではない。
委 員	このシステムは良いと思う。経過を追うことができるのが良い。最近、利用者の情報を知らないことがあった。事業所として知っていないといけない情報だったこともあり、障害分野で広がると良い。
会 長	個人情報のあることもある。利用にあたり支援者側の迷いもある。今後、運用にあたり議論する機会はあると思うのでお願いしたい。
会 長	議題(3)精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて、事務局より説明を求める。
事務局(地域福祉課)	資料7・8、参考資料集の内容を説明。
会 長	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る課題抽出シートについて、シート左側に日進市の課題が掲載されている。実現可能・不可能に関係なく、グループで意見交換をお願いしたい。
Aグループ発表	課題以外で現在、仕事で困っていることについて。ALSの患者で自宅入浴が難しくなっている。支援しているヘルパーが身体を支えることに不安があった。そのため保険者に福祉用具と2人介助を提案してもらった。2人介助は提案が通ったが、今日明日にも安全に入浴させてあげたいのに福祉用具のシャワーキャリーを借りるのには1ヶ月かかると言われた。こういった時に、ヘルピーネットのようなものを利用して、「困っているから誰か(シャワーキャリー)1台確保できないか」ということを皆で共有して、1台あるということであれば安全に入浴することができるという態勢が取れるとよいと思う。
Bグループ発表	課題抽出シートより、3「住まいの確保支援」、4「社会参加・就労等支援」、5「ピアサポートの活用」、7「医療連携体制」と色々絡んでくると思うが、心の苦しみをもっている方が集まれる場所があると良

	<p>い。居場所があることが一番救われる。「トータスゆったり」があるが、それ以外に参加できる場所があると良い。</p> <p>住まい・社会参加について、生きていく感覚を持たないといけない。根本的に生活能力が不足している人が多いのではないかという意見が出た。今、自分で名前を付けたが、「生活能力訓練アパート」のようなところがあると良い。そこには管理人が居るが管理される感覚が好きではない方もいるとのことで、ゆるい感じで見守ってもらえるアパートがあると良いとの意見があった。精神疾患のある方において医療・福祉などはもちろん大切だが、買い物・掃除等、生活する能力がない人が多いのではないか。病気に対するケアだけでなく生きていくための能力と生きる気力こそがそもそも大切。病気の部分で対処するのではなく、生きていこうとする力を促していくことが大切ではないかと思う。</p>
Cグループ 発表	<p>1「普及啓発」と7「医療連携体制」を話題にした。</p> <p>普及啓発については、単発のイベントでは限界があるため、継続的に困りごとを当事者の方が生で伝えていく機会が必要。対象は若い方。小学生のうちから継続的にしていくことが有効。</p> <p>医療連携体制については、市内に精神科が少ないこともありケース検討の場に医療機関の方の参加が難しい。例えば市内のクリニックの先生に来てもらえると良い。毎回でなくても、年2回でも良いので先生に参加してもらえると良い。</p> <p>「にも包括」についての協議は自立支援協議会で行うことになっているが、毎回議題も多く「にも包括」に割く時間も難しい。そのため、「にも包括」に特化した会議が年に1回でもあると良いという意見が出た。</p>
Dグループ	<p>1「普及啓発」、6「アウトリーチ支援」、7「医療連携体制」について話をした。</p> <p>医療連携については、ヘルパーネットで上手く活用できると精神障害の方の地域移行にも役立つのではないか。</p> <p>アウトリーチについては、教育現場（学校）と学校後の放課後子ども教室や放課後等デイサービスとの連携が上手くできていないため、そこを共有できるか。個別でそれぞれ事業をしているのが現状という意見が出た。</p> <p>普及啓発については、精神障害の幅が広いためどのような障害があるのか、そもそも我々が認識できていない。障害についての細やかな説明があると良い。当事者自身、障害受容が出来ていない方に対して、情報があることによって自分と重なっているところから受診に繋が</p>

	り、地域で生きやすいという環境が作れたら良いという意見が出た。
Eグループ	9「研修」の話を皮切りに話が広がった。それぞれの立場で研修をして障害や支援について、理解を深めることが大切。連携が大切で、現在学校関係に居るが、日進市に来て、療育のすくすく園より情報ももらいながら連携して子どもの支援してきた。民生委員の立場の方も居て、地域からの連携も必要ということで今後は色々な立場の人と連携しながら進めていくが、各現場が大変忙しいため、その隙間を埋める人が上手く細かい情報を伝えることでフットワークを軽く、お互い動けるようにできると良い。自立支援協議会に参加して2年になるが、今までお目にかかったことがない方と話が出来るというのは、大変有難い。ここで顔見知りになった方と連絡を取ることも出来ている。今日、グループワークを通じてまた理解が深まった。
会長	色々と議論を深める機会になったことをうれしく思う。グループワーク等、継続して行っていければと感じている。
事務局(センター)	次第3 その他について何かあるか。 (特になし)
事務局(センター)	来年度の協議会について、現在の委員の任期が令和5年度末までとなるが、来年度も引き続きお願いしたい。第1回の会議は、令和5年7月頃を予定している。決定次第、お知らせする。